

NPO 法人ハートセービングプロジェクト

令和 2 年度年次レポート

第 13 期 年次総会資料

議事

- 議題 1 令和 2 年度事業報告
- 議題 2 令和 2 年度活動計算書報告
- 議題 3 令和 3 年度事業計画
- 議題 4 令和 3 年度活動予算
- 議題 5 定款第 18 条 の変更に関する可否
- 議題 6 定款第 12 条 の変更に関する可否
- 議題 7 任期満了に伴う理事の選任
- 議題 8 ハートセービングプロジェクト本店住所の移転について

令和 3 年 4 月 18 日（日曜日） 午後 2 時から午後 3 時

会場 NPO 法人ハートセービングプロジェクト事務局

住所 東京都世田谷区下馬五丁目 17-12

（オンラインアプリケーション「Zoom」を利用したビデオ総会とします）

はじめに

理事長

羽根田 紀幸

2019年末ごろに中国武漢で発生した新型コロナウイルス感染症は、またたくまに全世界に拡がり、ほぼ1年が経過した現在全世界で感染者は1億人を突破し、コロナ前と世界の風景が様変わりしました。2019年の秋は、流行語大賞にも選ばれた「ONE TEAM」の名の下に、一丸となって戦ったラグビーW杯日本チームの姿に日本中が沸きましたが、それからわずか1年ちょっとでこの状態です。

有史以来その後の世界を大きく変えた感染症は過去に2つあり、今回は3つ目に相当すると言われております。1つ目は14世紀のヨーロッパで流行したペストで、ルネッサンスや宗教改革のきっかけに、2つ目は1918～20年のスペイン風邪と呼ばれているインフルエンザで、第1次世界大戦終結の最大の理由になったそうです。

今回のコロナ禍を乗り切るため、世界各国は「鎖国」政策をとっています。有効な抗コロナウイルス薬がない現段階では致し方ありません。世界各国で接種が始まったワクチンは、有効率が95%前後は期待できると言われておりますので、これが普及し奏功するのに期待したいと思います。

以上のような状況でしたので、2020年度のハートセービングプロジェクトの活動は、モンゴル渡航はもとより東京に集まることもできず、すべてオンラインでの会議や症例検討会になりました。詳しくは、本報告書の後述をご覧くださいと思います。

ハートセービングプロジェクトは、2001年10月に黒江兼司小児循環器医師、矢野宏臨床工学士、私の3名で渡航したのが始まりでした。2021年10月で、まる20年になります。その頃までに首尾よくコロナが収束すれば、ウランバートルか東京で記念式典を開催したいと思っております。

新型コロナは、我々人類を試しているといえます。感染者対健常者、個人情報対情報公開、医療者対他業種に従事する者、経済対感染対策、子ども・若者対高齢者、都会対地方、欧米対アジア、どの関係をとっても二律背反的で、両方を同時に立てることが難しい関係です。自分が属する集団のことだけを考えていては、決してうまくいかないことばかりです。ワクチンが奏功すれば早くも半年後、諸般の事情で流行が長引いても1～3年後には必ず収束するが、収まった後の世界は元に戻らずニューノーマル（新常态）が形成されると言われております。新常态を形成していく上で大切なのは、自分が属する集団を第1に考える某国前大統領の「○○ファースト」ではなく、他人や他の集団に属する人々のことも考えながら行動する「思いやりと調和」の精神が大切、と私は思っています。

コロナ禍という特殊な状況だからこそ、「思いやりと調和」の精神の延長線上にあるハートセービングプロジェクトの活動は、いっそう意義があると思っております。これからもご支援よろしくお願い申し上げます。

令和3年3月吉日

令和2年度事業報告資料

—令和2年度実施の各事業の内容と成果—

1. オンライン社員総会とオンライン懇親会

初めてオンライン総会が開かれました

「令和元年度第12期社員総会」が2020年4月26日（日）午後2時から、初めてオンラインシステムを利用して開催されました。コロナ禍ということで、総会に関する総会の規定で「オンライン」での開催ができるようになってから初めての実施となりました。

実際に足を運ぶことなく会議に参加できるという気安さもあり、パソコン上とはいえ久しぶりに顔を合わせる方々のご出席もあり、楽しいひとときとなりました。また、5月にはオンライン懇親会を開催し、会員同士で現状を伝え合いました。



2020年5月23日（土）に開かれたオンライン懇親会



初めてお会いする方々もたくさんいらっしゃいました

2. 渡航治療支援事業

モンゴルへ向けたコロナに関する医療知識の啓発活動

佐久医療センターと佐久総合病院小児科が主体となって運営している保護者啓発プロジェクト「教えて！ドクター」が作成した新型コロナウイルスに関する啓発ポスターのモンゴル語版を、当会の会員である愛媛県立中央病院の山本英一医師から紹介していただいたので、2020年4月26日にハートセービングプロジェクトモンゴルのフェイスブックで掲載しました。

このころはまだモンゴルでは新型コロナウイルスの患者さんが見つかっておらず、人々のあいだで、どのようなことに注意すべきかが共有されていなかったため、このポスターはモンゴル国内への啓発として大変役に立ったようです。



モンゴル語訳されたポスター

オンラインを用いて日本とモンゴルをつないだ心カテーテル治療のサポート

2020年10月22日、23日、29日ののべ3日間にわたり、モンゴルの国立母子保健センターの心臓カテーテル・血管造影室と日本のハートセービングプロジェクトの医師会員のあいだをインターネットでつないで、モンゴルで行われた心カテーテル治療のオンラインでのサポートを行いました。参加者は日本から羽根田紀幸理事長、富田英副理事長、檜垣高史理事、片岡功一理事、藤井隆成医師、母子保健センターからはボロルマー医師、バヤルマー医師、ワーニャ医師、ほか研修医5名の合計8名、日本側事務局からB. アルタントーヤ、宇佐美博幸理事、モンゴル側事務局からB. オユントーヤ、アマラーでした。患者さんの内訳はPDA（動脈管開存症）3人、ASD（心房中隔欠損症）2人の合計5人です。予め5人分の心エコーデータと心電図を日本にメールしてもらっていましたが、形式がDICOMで読み込みに問題があり、結局日本で開くことのできる施設がありませんでした。これを受けて今後の画像データはMP4で送ってもらえるように話しましたが、現地の病院のスタッフはMP4への変換のやり方がわからず、データを再送することができませんでした。



事前にスケジュール調整をし交代しながら対応しました



ZOOM システムを通じて日本とモンゴルをつなぎました

また、これは以前からわかっていたことですが、国立母子保健センター内はwifi環境が整っていないため、ハートセービングプロジェクトモンゴルのスタッフが所有するスマートフォン、PC、ポケットwifi、モンゴル側の医師の所有するスマートフォンを使用してZOOMシステムを使用しました。今後もオンラインを利用して国際間でやりとりを行うためには、モンゴル国立母子保健センターの心臓カテーテル・血管造影室とモニター室にwifiを整える必要があります。モンゴル国立母子保健センターはwifiを必要としていないとのことなので、場合によってはハートセービングプロジェクトが費用を負担してwifi環境を整える必要があります。現在、数社から見積もりを取りましたが、まだ発注はしていません。



モンゴルの国立母子保健センターのモニター室でボロルマー医師が自分のスマートフォンを使用してZOOMに接続している様子



モンゴル国立母子保健センターの心臓カテーテル・血管造影室のモニタールームにはパソコンがあるもののwifi接続はしていない

モンゴル側医師の課題

PDA（動脈管開存症）の治療については、すでに十分なレベルにあり、Zoom を通じて日本からモンゴルでの心カテーテル治療の様態を見ているだけでも安心して見ていられます。一方、経食道エコーのレベルがまだ十分でないため、ASD（心房中隔欠損症）、PS（肺動脈弁狭窄症）は日本から渡航できない今は治療ができません。日本から渡航できない期間に、youtubeなどで、自分たちで訓練しておいてほしいとの指示を出しています。また ASD に関する資料などもオンラインで送っています。



（上と右）2020年10月にモンゴル国立母子保健センターで ZOOM 支援支援による心カテーテル治療を受けた患者さん親子のうちの2組



2. 救急車輸送事業

2020年4月27日に新モンゴル日馬富士学園前にて贈呈式

2020年1月に広島市からお預かりしました救急車2台が4月27日にモンゴル・ウランバートル市に到着しました。当初は6月到着予定でしたが、コロナ禍の影響で物流がストップしており、そのため逆に予想外の早さで輸送していただけたようです。4月27日当日は、ウランバートル市の新モンゴル日馬富士学園前の広場で、横綱日馬富士関のお兄さんから受け取り病院であるドルノド県立病院の代表、ハン・ウール区立病院の代表のそれぞれに救急車の受け渡しを行いました。なお、救急車事業は、横綱引退後も、日本の各地方自治体とモンゴルの病院の間で無償供与の合意が成立すれば継続して行うこととなりました。



新モンゴル日馬富士学園前の広場で行われた救急車贈呈式

2. 教育事業

令和2年度内にモンゴルから日本へ学会参加のために招聘を予定していた3つの学会はすべて中止となったため、モンゴルからの医師の来日は、今期はありませんでした。

令和2年度もご寄付をありがとうございました

令和2年度中にご寄附をいただきました皆さまは以下の通りです（アイウエオ順、匿名希望の一社を除く）。

この度もありがとうございました。新型コロナウイルス流行の影響で大変な状況の下を、令和2年度もこのようにあたたかいご支援を賜りましたことを心から御礼申し上げます。本格的な活動再開の折には大切に活用させていただきます。

なお、令和元年度に助成金をいただき、昨年度の報告書に記載しました「エドワーズライフサイエンス基金」様の所在地は、正しくは「米国カリフォルニア州アーバイン」でした。謹んで訂正させていただきます。

Byambajav Batmunkh 様 / Byannemekh Altantuya 様 / 石原弘樹 様 / 出雲小児科医会 様
/ 伊藤康弘 様 / 今田博巳 様 / 宇佐美喜美枝 様 / 宇佐美博幸 様 / おおしろ小児科 様 / 大軒健彦 様
/ 尾坂バイカル 様 / 小澤晃 様 / 楫野恭久 様 / からすやま小児科 様 / 岸田憲二 様 / 郷原博 様
/ 国際ソロプチミスト出雲 様 / 杉岡みどり 様 / 杉山央 様 / 外山晴一 様 / 竹田正道 様
/ 谷口彩音 様 / 谷口ホンゴロー 様 / 田淵和子 様 / つむらファミリークリニックくみ小児科 様
/ 西川望 様 / 西山貴子 様 / 日動画廊 様 (募金箱) / 橋本委久子 様 / 羽根田紀幸 様 / 幅田博樹 様
/ 檜垣高史 様 / 藤原朋広 様 / 丸野聡子 様 / 村木レイ子 様 / 森田紘基 様 / 矢野宏 様
/ 横内信弘 様 / 和田典子 様 / 渡部一朗 様

(参考) 2021年のモンゴルの概況

新型コロナウイルス関連

2021年2月19日現在、全国の感染者数は2551、死亡者5、回復者1819、治療中者717（うち軽症625、中等症84、重度中等症7、重症1）。ウランバートル市は全体の67%程度を占めており、次いでセレンゲ県が8%と高くなっています。モンゴルでは一家に一人のPDR検査を目指しており、現在その50%あまりが実施済みです。

ワクチンの接種は2月23日から、医療従事者・緊急事態庁・警察庁・行政管理省庁の各公務員、高齢者、基礎疾患のある人を優先的に行う予定です。モンゴルではインド、中国（シノファーム）、ロシア（スプルートニクV）に加え、WHOによる「COVAX」プログラムと、各種のワクチンが届きつつあり、国民はそのなかから各自が希望する種類のワクチン接種を受けることができる（駐日モンゴル国大使館）とのこと。これに伴い、3月10日から義務教育の対面授業が、4月1日から幼稚園、保育園、大学、専門学校、職業訓練学校の対面授業が開始される予定です。

政治

2021年1月に新内閣が成立しました。保健大臣は再任です。6月には大統領選挙が実施されます。

新空港

空港自体はすでに2020年10月にはほぼ完成しました。開港時点でモンゴルミアット航空と相互乗り入れを行う予定の日本航空からは、地上とカーゴのそれぞれの指導員がすでに昨年よりモンゴルに駐在し、現地職員の指導にあたっています。新型コロナウイルスの収束による国際便の再開と共に、新空港の利用が始まるものとみられます。

議案 2 令和 2 年度活動計算書報告資料

令和2年度の会計財産目録と令和3年度の会計財産目録

科目	令和2年度	令和3年度
現金	149,081円	55,980円
貯蔵品（切手）	15,697円	9,516円
普通預金三菱UFJ銀行	6,394,709円	8,536,929円
普通預金 ゆうちょ銀行	1,699,732円	1,738,747円
普通預金 三井住友銀行	1,430,091円	1,603,357円
りそな銀行	9,137円	0円
郵便振替口座	2,568,914円	3,676,914円
合計	12,267,361円	15,621,443円

正味財産の増減および当期経常増減額はプラス3,351,082円でした。
 令和2年度末の財産のうち指定正味財産（使用目的が限定された寄付金額）は1,603,357円です。
 これはエドワーズライフサイエンス社からの2021年度モンゴルでの地方検診向けの助成金です。

		令和2年度事業計画金額	令和2年度事業報告金額	
収入の部	会費収入	400,000円	50,000円	
	寄付金収入	6,500,000円	3,824,760円	
	助成金等	1,500,000円	—	
	受取利息	100円	88円	
	その他収入	—	486,950円	
	小計	8,400,100円	4,361,798円	
	モンゴルでの物的サービスの受入	700,000円	—	
	日本での物的サービスの受入	1,360,000円	877,000円	
	物的サービスの受入合計	2,060,000円	877,000円	
収入合計		10,460,100円	5,238,798円	
支出の部	事業費	現地で治療支援する活動	5,630,000円	—
		日本で支援する活動	3,860,000円	203,105円
		教育事業	300,000円	—
		来日治療支援事業	—	—
		救急車輸送事業	900,000円	575,004円
		日本で広報する活動	250,000円	221,133円
		事業費合計	10,940,000円	999,242円
管理費合計	900,000円	885,474円		
支出合計		11,840,000円	1,884,716円	

「その他収入」（雑収入）とは、令和元年度に経費計上されていたモンゴル渡航エアチケットが、新型コロナウイルスの影響のためフライトがキャンセルとなったため返金された金額です。

令和2年度 事業別経費
令和2年3月1日から令和3年2月28日まで(施設等受入評価額含む)

事業	内容	日時	実施場所	従事者	受益者	支出額
国内 支援 事業	新型コロナウイルスに関する モンゴルでの啓発活動	2020.5.1～ 2020.7.31	東京・愛媛	12人	3400人	17,000円
	オンラインを用いた モンゴルでの心カテーテル 治療の支援	2020.10.22～ 2020.10.30	東京・島根・ 広島・秋田・ 愛媛	60人	300人	80,000円
	広島市からの中古救急車 2台をモンゴルの各病院 へ寄贈する事業	2020.3.5～ 2020.4.30	東京・広島	40人	80人	575,004円
	そのほかモンゴルで治療を 支援する事業にかかる業務	2020.3.1～ 2021.2.28	東京	12人	5000人	106,105円
国外 支援 事業	広島市からの中古救急車 2台をモンゴルの各病院 へ寄贈する事業	2020.3.5～ 2020.4.30	東京・島根・ 広島・秋田・ 愛媛	80人	1,000人	—
国内 広報	(1)年間広報ツールの発送	2020.3.5～ 2020.4.30	東京	12人	300人	195,133円
	(2)ホームページ維持管理	2020.3.5～ 2020.4.30	東京	12人	300人	26,000円
現地	事業費総額					0円
国内	渡航治療事業 事業費総額					203,105円
国内	広報事業 事業費総額					221,133円
国内	救急車寄贈事業 事業費総額					575,004円
国内	教育事業 事業費総額					0円
	管理費総額					885,474円
	合計					1,884,716円

令和2年度 収入の内訳

会費	50,000円
寄付金	3,824,760円
受取助成金	0円
施設等評価益	877,000円
受取利息	88円
雑収入	486,950円
合計	5,238,798円

※「雑収入」は、令和元年度にすでに経費計上済みだった日本・モンゴル間の発券済み国際エアチケットが、新型コロナウイルスの影響でフライトがキャンセルとなったため返金された金額です。

令和2年度 施設等受入評価益

施設等受入評価益とは、「無償又は著しく安い価格での施設の提供等物的サービス」のことです。以下の記載分はそのうち「客観的裏付けのある金額計算」されたものです。

なお、施設等受入評価益記載の寄付につきましては、原則、所得税・法人税控除の対象とはなりません。今後、所得税・法人税控除の対象としたい場合がありますら、国税局に個別に相談いたしますのでお申し出ください。

提供者名	換算金額	内容
八代高砂浦五郎 様	55,000円	大相撲カレンダー 50本
八代高砂浦五郎 様	30,000円	相撲番付 600枚
千代翔馬 富士雄 様	30,000円	相撲番付 600枚
O・M 様	16,000円	未使用白衣 2着
エンフグジル・バヤサル 様	26,000円	HP ドメイン料金 2021年
有限会社宇佐美写真事務所 様	720,000円	事務所家賃 2020年度分
日本国内 物的サービスの受入合計	877,000円	

令和3年度事業計画

新型コロナウイルスの収束が現実的になれば、時期を見て今期中にモンゴル国への渡航治療支援事業を再開する予定です。時期としては11月頃を想定しています。

それまでの間は、オンラインを使って「症例検討会」「オンライン学会」の開催を計画しています。第1回はゴールデンウィーク中の予定で、幹事は檜垣高史理事、その後は月に1度程度の頻度で行います。これらのオンライン会議は会員であれば日本・モンゴルを問わず参加が可能、非会員で参加を希望の方は、参加費を支払えば参加可能とします(参加費は今後決定します)。会議は、ベースは英語ですが、日本語・モンゴル語間の通訳も入る予定です。また、ZOOMシステムを利用してスマートフォンでも見るようにして、モンゴル国の地方病院からも参加可能とします。

福井県からモンゴルへ寄贈される救急車1台は、緊急事態宣言の解除時期にもよりますが、2021年3月中にモンゴルへ輸送の予定です。また6月には広島県から2台の救急車がモンゴル国へ寄贈される予定で、こちらは令和3年度中にモンゴルへ輸送の手配をとる予定です。

また2021年は当団体の前身の時から数えて活動開始20周年となることから、2021年10月3日(日)には記念パーティー等のイベントを開催する予定です。

2021年度 ハートセービングプロジェクト おもな予定表

3月	福井県からの中古救急車をモンゴルへ輸送
4月	ハートセービングプロジェクトの社員総会をオンラインで開催
5月	日本国内・モンゴルをオンラインで繋いで「症例検討会」「オンライン学会」を開催。 簡単なスライドなどを用意。幹事を持ち回りにして、月に1回程度実施する
6月	広島県にて中古救急車のモンゴルの病院への寄贈式
10月	ハートセービングプロジェクト活動開始から20周年記念イベントの開催
11月	新型コロナウイルスの収束状況を鑑みつつ、できればモンゴル渡航治療事業を再開
2月	期末決算

令和3年度活動予算

令和2年度 繰越額		15,621,443円
令和3年度 会費収入見込額		30万円
令和3年度 寄附金見込額（国内）		300万円
令和3年度 物的サービス等受入見込額（国内）		15万円
令和3年度 物的サービス等受入見込額（現地）		20万円
令和2年度 収入見込額合計		365万円
国内支援事業	(1) モンゴル地方検診・カテーテル班 エアチケットを含む交通費 渡航人員のべ20人	220万円
	(2) 国際通信	12万円
	(3) 消耗品・事務用品ほか	10万円
現地支援事業 (モンゴル)	(1) 現地での物的サービス（バヤンゴルホテル宿泊）	24万円
	(2) 地方検診 宿泊・交通費	40万円
	(3) モンゴル国立母子保健センターでの治療活動で 使用するデバイスにかかる費用	200万円
	(4) 現地ボランティア日当	8万円
	(5) 医師免許取得等事務手数料および関税	5万円
	(6) 車両関係費（ガソリン代・レンタカー費用）	12万円
	(7) 出張旅費（食費・水等）	24万円
	(8) その他（通信費ほか）	6万円
教育事業	(1) 国際通信	15万円
	(2) 消耗品・事務用品ほか	5万円
広報事業	印刷物の作成・郵送料など（物的サービスを含む）	30万円
救急車輸送事業	救急車の輸送費	120万円
管理費	例年と同様の内容として	80万円
令和2年度 支出見込額合計		811万円
次期繰越予定額		1115万円



みなさまへの大切なご連絡です

NPOハートセービングプロジェクトの事務局が引越しました!

メールアドレス、電話番号はそのままですが、住所とファックス番号が変わります!

事務局スタッフの顔ぶれは変わりませんので、これからも何卒よろしくお願いいたします!

新住所

〒154-0002

東京都世田谷区下馬1-29-5 ウィンヒル下馬102

電話番号 03-3487-9006

ファックス 03-3487-6024(新しい番号です!!!)

メールアドレス hsp@m01.itscom.net